

## 平成 28 年度通常(第 2 回)理事会議事録

日 時： 平成 28 年 9 月 3 日（土） 11：00～15：00

場 所： 夢の島マリーナ 2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、植松眞、中川千鶴子、桑原啓三、鈴木修、斎藤渉、坂谷定生、平松隆、中澤信夫、川北達也、天辻康裕、宮野幹弘、富田三和子、相澤孝司、菊池邦仁、末木創造、平井昭光、森信和、大島茂樹、大西治夫、中村和哉、馬場益弘、井川史朗、黒川重男、岡村勝美、宇都光伸

以上 26 名

出席監事：児玉萬平、上野保

以上 2 名

オブザーバー：安藤淳総務委員長、柳澤康信広報委員長、芝田崇行環境委員長、戸張房子国際委員長、小山泰彦オリンピック準備委員会副委員長、角野吉則事業開発委員、大村雅一事務局長

### 議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名中、出席者 26 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 28 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を鈴木修専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、末木創造、大島茂樹の両理事が任命された。

河野会長から、8 月 2～25 日、リオデジャネイロ・オリンピック本番を視察した。懸念されていた治安、インフラ、水質などは問題なかった。日本全体としては過去最多のメダルを獲得したが、セーリング競技は残念であった。レースシーズン中で外洋のパールレースやジャパンカップも成功裏に終了した。重要な案件につき、議論をお願いしたいとの挨拶があった。

### <審議事項>

1) 障がい者セーリング推進委員会委員長人事の件

安藤総務委員長から資料に基づき、JSAF 内に障がい者セーリングに関するワールドセーリング（旧、国際セーリング連盟）からの窓口組織を構築することに関する件（委員長人事）について説明があった。

前回理事会で、「障がい者セーリング推進委員会」設置を承認されたが、委員長人事について審議いただきたい。委員会メンバー（選出母体）は、委員長に鈴木修専務理事、副委員長に高間信行氏（兼務事務局長）、日本障がい者セーリング協会、日本視覚障がい者セーリング協会、日本ハンザクラス協会、その他、障がい者セーリング活動、支援を行っている JSAF 加盟・特別加盟団体、フリート（東京都ヨット連盟、神奈川県セーリング連盟、広島県セーリング連盟）、事務局長に高間信行氏（日本障がい者セーリング協会副会長）、事務局次長に秋山淳氏（日本視覚障がい者セーリング協会）ならびに安藤正雄氏（日本ハンザクラス協会副会長）とする。本理事会においては委員長について承認いただきたいとの発言があった。

戸張国際委員長から、WS パラワールドセーリングコミティ委員の須藤氏は委員会メンバーとして参画するかとの質問があった。

鈴木専務理事から、委員としてご協力いただくとの回答があった。

満場一致で承認された。

## 2) 会長渉外活動費について

安藤総務委員長から資料に基づき、会長渉外活動費について説明があった。

会長渉外活動費制定の背景として、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、海外要人の来訪ならびに海外要人との会食打合せが予想される。しかし、会長渉外活動費的なものがなかったため、JSAF の会長渉外活動費基準を設けて適切に対応したい。使用基準は、ごく限られた海外要人との会食等について、会長と専務理事で要人等の会食の重要度、要人の格等を精査し、当該要人分の食費を会長渉外活動費として支出すべく、規程整備と予算措置を行う。JSAF 側の参加者分およびその他の要人分は、JSAF 側参加者の自己負担とする。なお、会長が出席できない場合、会長代理出席の副会長、専務理事、常務理事は、当該会長渉外活動費から支出する。予算措置は、本年度の会長渉外活動費はオリンピック準備委員会で措置する。来年度からは、各委員会活動の中で得られた収入から拠出、当該渉外活動費として予算計上し、年度決算時に一般会計決算として一括承認するとの発言があった。

斎藤常務理事から資料に基づいて、顧問会計の馬場先生から、収益を増やすために必要となる因果関係が見当たらず、公益事業で交際費を支払う必要性は特段認められない。また、交際費は広く接待交際費まで含まれ、支出範囲も広い印象をもたれるので、科目名は「渉外活動費」が適切であるとの見解をいただいた。また、連盟からの支出は馴染まないことは河野会長も了承しているが、東京オリンピックでの活動が広がっていくこ

とから提案している。財源は、基本的に委員会活動から得られるもので支出する。JOC強化事業では本年度も財務脆弱団体で負担金は2割となった。支出は予算範囲内であっても、渉外活動費を検討していただきたいとの発言があった。

天辻理事から、各委員会事業の渉外活動費支出は、委員会事業に会長が参加することが条件かとの質問があった。

安藤委員長から、連盟を代表して会長出席を想定している場合に限るとしているとの回答があった。

平松理事から、渉外活動費は必要枠と理解しているが、海外要人のみに適用されるのかとの発言があった。

児玉監事から、非公式で監事意見を提出している。渉外費は経理処理規程にあるので、今まで通り、会長判断で問題はない。予備費を予算化することでも対応できる。従って、現行規程で対応できるのではないかとの発言があった。また、本日欠席の斉藤監事からは、基準の適用が曖昧である。また、補正予算を申請するべきであるとの意見されている。

満場一致で承認された。

### 3) 第71回国民体育大会セーリング競技感謝状申請書

末木理事から資料に基づき、第71回国民体育大会セーリング競技感謝状について説明があった。

10月2～5日まで、岩手県宮古で開催する第71回国民体育大会セーリング競技の大会運営協力に対し、海上自衛隊大湊警備隊、宮古海上保安署、宮古漁業協同組合の3団体に、国体委員会の推薦に基づき感謝状を贈呈するとの発言があった。

満場一致で承認された。

### 4) 平成28・29年度最高審判委員会委員について

鈴木専務理事から資料に基づき、平成28・29年度最高審判委員会委員について説明があった。

6月18日理事会で決定済の最高審判委員会委員に、前田彰一氏、棚橋善克氏、柴沼克己氏の3名の委員を追加する。常任委員会で承認されているとの発言があった。

満場一致で承認された。

## <報告事項>

### 1) リオデジャネイロ・オリンピック報告

齋藤常務理事・オリ強化委員長から資料に基づき、第31回オリンピック競技大会(2016リオデジャネイロ)について報告があった。

日本選手の成績は、土居一斗・今村公彦組(470級男子)17位、吉田愛・吉岡美帆組(470級女子)5位、牧野幸雄・高橋賢次組(49er級男子)18位、宮川恵子・高野芹奈組(49erFX級女子)20位、富澤慎(RS:X級男子)15位、伊勢田愛(RS:X級女子)20位、土居愛実(レーザーラジアル級女子)20位であった。今回の選手の中で、吉田愛選手だけが過去の反省を生かし、自分のペースとプランでリオに照準を合わせて準備し本番に臨んだように思える。富澤選手も微風に照準を合わせて減量した点はそれに近い。他の選手は、与えられた良い環境の中で頑張ってきたが、結果には結びつかなかった。今回の結果を見ると、日本人でメダルを狙えるのは10~20年に一度くらいの図抜けた逸材でないと難しく、普通の日本ナンバーワンくらいだと完璧な環境でトレーニングしても10位くらいにはしかならないのではないかと、という印象を持った。別添、「セーリング競技オリンピックデータ」、「リオ五輪選手報告(JOC提出)」、「リオ五輪セーリング競技成績及びレース毎」の資料については一見いただきたい。

総合的に惨敗の感は否めない。スキフ、マルチハルクラスでは強化委員会としてプロジェクトとして取り組んできたが期待できる効果はでていない。また、49erFXはアジア枠で出場できたが評価できない。東京オリンピックに向けては、選手を支援いただける企業が増えること、世界トップレベルの選手を育成できる国内外からのコーチを招聘すること、強化マネジメント体制では事業規模拡大に伴ってボランティアいただける人材が必要であるとの発言があった。

宮野理事から、RSX選手担当レベルとしてみると結果は出せたと考えている。選手とのコミュニケーションを含めて前回大会よりいい雰囲気に参加できた。今回の課題を把握して東京オリンピックの準備をすすめていきたいとの発言があった。

森理事から、リオ五輪セーリングの国内TV放映はほとんどなかった。東京オリンピックでは大会を成功に導くことと、日本人選手がメダルを獲得することが重要になるとの発言があった。

植松副会長から、ロンドンに続いてリオでも結果がでなかったことをまず反省していただきたい。メダル獲得の具体的な対策を真剣に考えるべきであるとの発言があった。

平松理事から、アジア全体でも完敗で、学連の艇種にスキフ艇導入、スポンサー・企業の充実、広報体制など早急に強化方針を打ち出すべきであるとの発言があった。

河野会長から、全体的に惨敗であったが、470女子総合5位については、質の高い内容であった。前回大会以降の反省点を生かされていたところもあり、特に疑問視していた体力面では最終レースでトップフィニッシュをしたことで払拭した。次期体制は早急に強化会議を開催して、東京オリンピックに向けて従前同様でない体制作りを模索するとの発言があった。

## 2) 東京オリンピック・パラリンピック準備委員会報告

桑原副会長から、東京オリンピック・パラリンピック準備委員会について報告があった。

ワールドカップ日本開催は、2017年蒲郡、2018年江の島で開催、9月中にプレス発表する。また、日の丸セーラーズ協賛金は現段階で6社（ヤマハ発動機、セコム、プルデンシャル生命保険、ECC、トリプルエー、ラグジャリーカードジャパン）と契約した。その他、鉄道各社の広告枠も契約を進めている。今後も資金集めを継続するとの発言があった。

## 3) レース委員会報告（公認申請一覧）

岡村レース副委員長から資料に基づき、レース委員会報告があった。2016年度JSAF公認申請等進捗状況一覧（平成28年8月18日現在）、37件申請33件承認、4件調整中との発言があった。

## 4) ルール委員会報告

大村ルール副委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

①平成28年度IJ/IU推薦候補者について、IJ/IU候補推薦委員会において、申請者から提出された書類に基づき推薦適否を審査した結果、今津浩平氏（IJ推薦候補者）と川田貴章氏（IJ推薦候補者）の2名を推薦可と判断し、常任委員会で承認された。②2016年J24ワールドならびに2016アジアカップ・江の島オリンピックウィークの2大会につき、国内で開催される国際大会におけるインターナショナル・ジュリー・メンバーについて、大会の主催団体より申請があった。審査の結果、申請の通り承認した。③7月17日～19日開催されたIJセミナーは21名（海外7名）の受講者を得て終了した。アジアからも多くの参加があり、JSAFとして国際貢献を果たせたとの発言があった。

## 5) 国体委員会報告（岩手国体及び愛媛リハーサル国体競技日程概要）

末木国体委員長から資料に基づき、第71回岩手国体セーリング競技日程ならびに第72回愛媛国体リハーサル大会競技日程について概要報告があった。

相澤理事から資料に基づき、台風10号による宮古市の被害状況について報告があった。盛岡宮古を結ぶ国道106号線が複数個所で決壊、通行できない状況となっている。ハーバー施設については、雨の影響はなく、建物施設・仮設プレハブ等に被害はなかった。9月3日には106号線は片側開通しているとの発言があった。

黒川理事から、愛媛リハーサル国体は鋭意準備を進めているのでご協力いただきたいとの依頼があった。

## 6) (仮称) ANA ウィンドサーフィンワールドカップ横須賀大会について

宮野理事から資料に基づき、(仮称) ANA ウィンドサーフィンワールドカップ横須賀

大会について報告があった。

平成 29 年（2017 年）5 月、神奈川県横須賀市でウィンドサーフィンワールドカップ（PWA 公認の世界最高峰のワールドツアー）を開催予定であることを、日本ウィンドサーフィン協会から情報共有いただきたいとの提案があった。種目は、スラローム（風上から風下へ設定されるショートコースで早さ競う種目）で非常にスピード感にあふれている。ウィンドサーフィンをはじめとするマリンスポーツの普及促進等の目的を達成するため、5 年以上の継続開催を目指すので、理事各位にご協力いただきたいとの発言があった。

## 7) 外洋レース報告（海上保安庁後援復活・パール・ジャパンカップ・ア杯福岡大会）

坂谷常務理事から資料に基づき、第 57 回パールレース及びジャパンカップ 2016 終了報告があった。

まず、2012 年沖縄東海レースで落水等の事故から海上保安庁の後援名義が途絶えていたが、本年パールレースから 4 年ぶりに後援名義が復活した。そのパールレースは、51 艇の参加を得てエントリー数が回復した。ジャパンカップは、大会会長に植松副会長、実行委員長に坂谷とした JSAF 主催レースとして 2 回目の開催となった。エントリー締め切り時点で開催基準 10 艇はクリアしていたが、最終的に 8 艇となった。優勝艇はサマーガールとの発言があった。

馬場理事から、出艇数を増加させるようにしたい。来年は関東で開催予定であるとの発言があった。

植松副会長から、2016 年 11 月 18～20 日開催の「ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ福岡大会」について報告があった。

岡村理事から資料に基づき、大会概要について説明があった。小戸ヨットハーバーをベースキャンプとして、ソフトバンクグループ、福岡県セーリング連盟で準備を進めている。大会概要は、レース海面は福岡ドーム前に設定、レースは 2 日間、レース時間は 13:00～14:30 までで各 3 レース、レースコースは 8 パターンである。その他、小戸ヨットハーバー内に 6 チームのベースキャンプを設営、コンテナ等の設置、フネの下架等をする。観覧艇やビジター艇などはマリノアヨットハーバーで受入対応する。観覧艇はコースエリア外で観戦することができる。観覧エリアは、地行浜ビーチエリアとし、9 月末頃にローソンでチケット販売を開始する予定である。一般客を収容するために陸上でイベントも開催するとの発言があった。

## 8) 海と日本プロジェクト報告

川北普及指導委員長から資料に基づき、普及指導委員会活動報告があった。

日本財団の助成事業「海と日本プロジェクト」は、海の日的前後 2 ヶ月で全国 14 カ所においてイベントを開催している。全国で 5,000 人超の集客を実現、行政の後援やマス

コミの取材なども多数受けており、セーリングの知名度を上げることができた。来年度は2月頃に申込を開始し、規模拡大するとともに普及活動を推進する。

日体協助成事業の公認指導者養成講習会は、平成30年度から指導者育成体制が大幅に見直される予定、指導者が積極的に学習を継続する（アクティグラーニング）仕組みを導入することで高品質なコーチングを実現する。公認コーチ後期講習会では、ラグビーメンタルトレーナーの荒木香織氏の講演予定があるとの発言があった。

## 9) リオ壮行会決算報告

中川副会長から資料に基づき、第31回オリンピック競技大会（2016 リオデジャネイロ）セーリング競技日本代表選手団壮行会について報告があった。

7月1日、帝国ホテル本館2階「孔雀・西の間」で高円宮妃殿下、JSAF 応援団長の加山雄三氏ご臨席の下、選手団壮行会が盛大に開催された。出席総人数320人、収支はオリ強委員会および準備委員会負担金、オリジナルポロシャツ販売などを含めて約340万円の収支となった。ご協力いただいた関係各位に感謝するとの発言があった。

## 10) 外交青書2016（スポーツ・フォー・トゥモロウ）

戸張国際委員長から資料に基づき、外交青書2016（スポーツ・フォー・トゥモロウ）について報告があった。

外務省では2015年度から新たに「スポーツ外交推進事業」を開始し、スポーツ選手や指導者の招聘等を行っており、今回、外交青書2016「スポーツの力を生かす外交～セーリングを通じたフィリピンとの交流強化～」で、2015年8月にフィリピンからセーリングの選手を招待したコラムが掲載された。本年も10月江の島オリンピックウィークにあわせてミャンマー、インドネシアのセーリングチームを招待するとの発言があった。

## 11) ワールドユニバーシティ、ASAF キールボートカップへのJSAF 代表艇派遣について

中澤キールボート強化委員長から資料に基づき、第8回ワールドユニバーシティ・セーリングチャンピオンシップ及びASAF キールボートカップ2016のJSAF 代表チーム派遣について報告があった。

本年9月25～30日までオーストラリア・パースで開催予定の第8回ワールドユニバーシティ・セーリングチャンピオンシップに、3月に実施された大学対抗&U25 マッチで優勝した同志社大メンバーを中心とする日本代表チーム（スキッパー:山田剛士氏）及び、10月27～30日まで中国・深圳市で開催予定のASAF キールボートカップ2016（チャイナカップ同時開催）に、公募の結果、ターコイズチーム（スキッパー:井川幸恵氏）を派遣する。チャイナカップには光風チームもエントリーしている。また、NYYC インビターショナルカップに招待状が届いたので、参加艇を公募しているとの発言があった。

## 12) 平成 28 年度メンバー登録数(7 月 31 日現在)

大村事務局長から資料に基づき、JSAF メンバー登録数実績について報告があった。平成 28 年度メンバー登録 (7 月 31 日) で合計 8,938 名との発言があった。

## 13) 平成 28 年度通常第 1 回理事会議事録 案(6 月 18 日)

大村事務局長から資料に基づき、平成 28 年度通常第 1 回理事会議事録 (案) について報告があった。

## 14) 平成 28 年度定時評議員会議事録 案(6 月 18 日)

大村事務局長から資料に基づき、平成 28 年度定時評議員会議事録 (案) について報告があった。

## 15) その他

- ①大村事務局長から資料に基づき、熊本地震災害義援募金について報告があった。4 月 27 日～6 月 18 日まで募金総額は 1,104,208 円となった。預かった義援金総額は、日本体育協会を通じて、スポーツ関係全体として日本赤十字社へ寄付した。なお、日体協から、平成 28 年熊本地震・日本赤十字社への災害義援金の寄付について御礼があった。義援金総額は 33,291,847 円であったとの報告があった。
- ②大村事務局長から資料に基づき、岸記念体育会館における警備体制強化について報告があった。警備体制の強化に向けた具体的な内容は、1 階正面玄関警備員の人数を 2 名とする。また、地下 1 階通用口利用可能時間帯以外は、原則としてシャッターを降ろすため、許可を得た者以外は利用不可となるとの発言があった。
- ③大村事務局長から資料に基づき、外洋東京湾会長改選について報告があった。
- ④大村事務局長から資料に基づき、2016 ヨコハマ・フローティング・ヨットショーについて報告があった。
- ⑤小山準備委員会副委員長から資料に基づき、山崎名誉会長から「日本ヨットマンクラブ総会・懇親会参加依頼」について代読報告があった。日本ヨットマンクラブは日本全国のヨット愛好家及び関係者により構成し、会員の親睦を図るとともに、JSAF 事業に協力し、セーリング界の発展のため、会員増強等を支援することを目的として、毎年、国体開催地で総会・懇親会を開催している。当クラブの更なる活性化を目指し、会員増強対策の一環として、総会の参加依頼を各団体等会長宛に発送した。また、若手の増強もできないか各大学 OB 関係者にも活動していただいている等の発言があった。
- ⑥戸張国際委員長から、11 月 4～13 日、World Sailing 総会がスペインで開催される。JSAF 国際委員会委員を派遣する。今回では 2020 年オリンピック艇種は決定しないが、MNA に配布されたアンケートを可視化したものを討議するとの発言があった。

⑦河野会長から、World Sailing 会長選挙があるが、JSAF としてはポリシーには関心があるが、ポリティカルに関心はないというスタンスだが、2020 年オリンピック艇種決定にできるだけ有利に進めていただきたいとの発言があった。

平成 28 年度通常 (第 2 回) 理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 28 年 9 月 3 日

議 長	会 長	河 野 博 文
議事録署名人	理 事	末 木 創 造
議事録署名人	理 事	大 島 茂 樹
	副 会 長	植 松 眞
	副 会 長	中 川 千 鶴 子
	副 会 長	桑 原 啓 三
	専 務 理 事	鈴 木 修
	常 務 理 事	斎 藤 渉
	常 務 理 事	坂 谷 定 生
	監 事	児 玉 萬 平
	監 事	上 野 保